

## 自己点検・自己評価の報告

平成30年5月

### 1はじめに

2年間同じテーマ「環境構成」で取り組みました。6月に評価をして、その後も継続して課題の解消に取り組み、3月中旬に最終評価を行い、来年度につなげる課題も見えてきました。その評価の概要と職員一人ひとりが具体的に提案した改善案を報告します。改善案は平成30年度に検討しながら実践していく予定です。評価において見えてきた課題については今後も話し合いを進め遊びの環境の改善に努めていきたいと考えています。

### 2「環境構成」の中の点検項目

- 1) 指導計画に基づいて安全で清潔感があり、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
- 2) 安定して遊び込めるように、遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している。
- 3) 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて再環境を構成している。
- 4) 幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている。
- 5) 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。

### 3 点検・評価の経過

- 1) 項目の決定 4月
- 2) 中間点検 6月
- 3) 公開保育（参観者による関係者評価） 7月28日  
参観者（小学校教員・町議会議員・理事・町教育委員会）に点検項目の視点から、公開保育を参観していただき、意見をいただいた。
- 4) 関係者評価（理事） 1月13日  
中間点検及び公開保育における意見を踏まえ、理事会において意見をいただいた。
- 5) 自己点検のまとめと公表 3月  
一年間の経過を踏まえ、今後に向けての改善策をまとめた。  
3月園だよりに掲載して保護者等へ公表した。
- 6) 関係者評価（理事） 3月31日  
自己点検のまとめにおける改善策について、理事会において意見をいただいた。

#### 4 公開保育(7月28日)協議概要

##### 1) 園長挨拶

- 認定こども園(幼稚園型)のこと
- 議員、小学校教員の参観へのお礼
- 新幼稚園要領の概要 幼少接続の重視
- 遊びの環境づくりの充実と打ち合わせ時間の確保が課題

##### 2) 今日の保育の経過説明 渋谷、長谷川

- 一日の流れ 認定こども園になっての変化
- 自由保育と一斉保育のねらい
- 各学年の「ごっこ遊び」の内容
- 年中児の「おままごと遊び」の内容とねらい  
レストランごっこのあそびの変化と、今後の発展について

##### 3) 協議意見

- (議会 山木) 自発的にお金を作り始めていた。とうもろこしのひげで遊んでいた。レストランごっこでは、フライパンで調理している子の隣の子が「ジュ」って言う。一親の様子を見ているからか。年少児がトイレの後自分でしっかりパンツをはいていた。
- (教委 早坂) 春の参観から成長が見えた。小学校学習要領が(H.32から)改訂される。幼稚園の先生方の「深い看取り」に学んでいきたい。
- (菅野 こども課) 安心して遊べる環境ができています。トマトなどの収穫物等「におい」を感じる大切さ。敷物をたたむとき、園児2人で自然に共同して畳んでいた。普段の言葉がけが感じられる。
- (糠小 佐藤正) わが子は卒園児。ちょうちんは一人一人の制作物として飾られており、自分のはこれだと自慢げに示す。自信をもって遊び込めている。活動の流れが自然で、日頃の指導が感じられる。トラブルにはすぐに口を挟まずしばし様子を見ている。環境は工夫されている。子どもの表情が輝いている。教師が子どもと一緒に楽しんでいることで、子どもの(あそぶ)意欲をかきたてている。先生は子どもの目を話している。ルールの教えあいが子ども同士でできている。
- (糠小 佐藤香) 現1年生は、はさみの使い方が上手。釣り糸を毛糸にしてよじれないようにしており、教師の配慮がうかがえる。表情が生き生きしている。昨年度の年長児(現1年生)の幼稚園での活動を写真で見て、子どもの育っている力や活動を小学校でもつなげていきたいと思う。(自己決定力、解決力、判断力、他と関わる力)
- (糠小 平教頭) トイレのスリッパを並べ、自慢するでも報告するでもなく自然とやって部屋に戻っていった。子どものさりげない言動をうまく拾ってい

きたい。小学校でも主体的な学びの環境づくりを進めていきたい。

- (なかよし保) コーナーづくりをうまくやっている。片付けがしっかりしている。プール遊びの注意事項も徹底している。
- (つくし保 石塚) 手作り物が多く、既成品にない良さを感じる。クロスの片付けを自主的にやっていた。安全面から事前に行動を制限してしまうが、安全を自ら考えることも大切と思う。
- (理事 松田) わが子の在園児の運営方針が今も続いている。相手を考え、友達と関わる力が育っている。現在小1を担任しているが、まっさらからの学習をと緊張するのではなく、幼保の時期に育んできた力をしっかり受け取るようにしていきたい。(パトンのリレー)このことは教員研修でも話されている。生活科から学ぶカへつなげていく。
- (理事 新藤) 幼児施設での研修機会の確保には、どこでも苦慮している。議会、行政においてもご配慮、支援をお願いしたい。学童施設に関わっているが、自分の思いを口で伝えられず手や足が出てしまう子がいる。運営する指導員は必ずしも保育の有資格者ではない。行政での留意をお願いする。今日の保育については、一部子どもの遊びに目が届かない場面があったので改善してほしい。

作りたいものがあったてもすぐに作れる環境にないため、作れるコーナーがあるとよい。とうもろこしの皮を遊びに使ってはどうか。トウモロコシのしくみ(ひげと粒のことなど)についても教師から話があると面白い。
- (白岩理事) あなぐら1の本棚を使っていないのはもったいない。閉じたまま(開けられないようにして本を置いて使ってはどうか。

## 5関係者評価(1月13日理事会)

(理事長):今年度は昨年と同じ項目で行っている。7月28日に理事の方々にも参加いただいた公開保育も関係者評価として、学校評価の一環と位置付けて実施した。教職員による自己評価の中間評価別紙のとおりまとめているので、皆さんのご意見をお聞きしたい。

新藤:点検項目の「○○しているか。」という問いに「している。」との自己評価がある。例えば「安全で清潔感のある環境を構成しているか」の安全で清潔感のある環境を先生方が具体的にどのような状態をイメージしているのか、イメージは先生毎に異なるはず。まず、各先生が抱く「問いにある環境」のイメージを出し合うところから議論を進める必要があると思う。

松田:私の勤める小学校でも学校評価をしている。点検項目ごとにA~Dの評価とコメントを行い、評価の低かった項目を浮き彫りにし、改善策を立

てるようにしている。

鈴木：評価で終わらせず、具体的な改善策の策定につなげていく必要がある。

新藤：子どもたちから「○○したい」「○○すればいいんじゃない」など思いを引き出す場面をつくることも大切だ。また子どもたちの思いに適切に対応していくには先生方にも十分な知識と経験が必要になってくる。

白岩：いろんな活動をしてみて、うまくいかないこともあると思う。なぜ失敗したのか子どもたちに考えさせることも必要。また、学齢に応じて遊びの内容も変わってくるので、自己点検も含め諸会議においては学年ごとの話し合いを大切にしたい。

理事長：皆さんから出されたご指摘・意見を職員に下ろし、意義ある学校評価にしていきたい。

## 6 自己点検のまとめ(改善策)

### 今後に向けて改善案

実施日 平成30年3月14日

#### ○異年齢児との交流について

- ・年間計画に入れる。(畑活動・弁当を一緒に食べる・給食交流・散歩)
- ・年長児が年少、年中児に遊びを教えたり、世話をしたりすることを今後も続けていきたい。

#### ○工作活動

- ・経験の積み重ねが大切。
- ・思いっきり使う経験をして、考えて使えるようにしていきたい。
- ・その場で何かを作る紙遊びでなく、遊びの物を作る紙遊びにしていきたい。
- ・年少児の早い段階から紙遊び、のり、セロハンテープを取り入れていけるようにしたい。
- ・量や必要な物など使いたいだけ使ってしまう。量を考えて準備していく。

#### ○衛生面について

- ・清潔面において心がけながら生活しているが、消毒の場所、数、怪我の点検簿などについては、今後も改善する点があると思う。
- ・年少児の給食の時、床に食べこぼしてしまう。細目に床を拭いているが、床にシートをしくなどの工夫をしてはどうか。

## 7 関係者評価(3月31日理事会)

公開保育での意見や理事会の意見を踏まえ、2月に今年度の自己点検のまと

めを行い、3月園だよりにて公表した。皆さんのご意見をいただきたい。

新藤理事： 点検項目中「指導計画に基づいて安全で清潔感があり、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしているか。」において、安全・清潔と主体的の関係がわかりづらい。

また、改善案にある「その場で終わる紙遊びではなく、遊びのものを作る紙遊びにしていきたい。」とあるのは、保育者の指示による紙遊びになってしまい、主体性、自主性が育たないのではないか。文意を誤解しているのか。

松田理事： 担任する1年生を見ていると、自分のひらめきで遊びを広げている。子どもたちの自らの思いを大切にする遊びの環境を作ってほしい。

理事長： 安全・清潔は、危険回避の注意や指示が最小限で済むような環境という意味で、大切な環境の要素と考える。この点検項目は、モデル例からの引用であるが、点検項目を絞っていく必要があると思う。

改善案の真意については職員会議にて確認したい。自主性を大切にすることは不変でこれまでも大切にしてきた教育方針なので、「作って終わり」にならないようにしたいということだと思うが、言葉足らずであるので、職員会議に報告する。